

令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	嬉野市立嬉野中学校	生徒数	306 人
-----	-----------	-----	-------

I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	不読率 0 を目指して～あなたに身近な図書館を～
	取組期間	令和 7 年(2025 年) 4 月 1 日 ～ 令和 7 年(2025 年) 1 1 月 30 日

※令和 7 年(2025 年)4 月 1 日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和 7 年(2025 年)11 月 30 日までの取組みとする。

Ⅱ.取組後の評価

評価	取組人数	306人	実施日数	244日	読書冊数	10,438冊	連携した団体数	4団体
	取組内容（概要）	① 読書環境整備（蔵書の充実、テーマ展示、面出しリンク、新刊案内掲示、新聞活用、図書館だより発行、しおり・ブックカバー配布） ② 授業連携（オリエンテーション、読書感想文選書、本の帯づくり） ③ 委員会による広報活動（アンケート実施、おすすめの本紹介、委員会だより発行） ④ 図書館まつり（読書 BINGO、しおり作り、先生当てクイズ、広辞苑カルタ大会） ⑤ 地域との連携（地域ボランティアによる読み聞かせ、嬉野図書館の企画への参加、地元書店のイベント活用） ⑥ 多様な子どもたちへの対応（学校生活支援員と連携した定期来館の働きかけ）						
	工夫したこと	第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に掲げられている「不読率の低減」を意識し、以下の工夫を行った。 まず不読の生徒に図書館を知ってもらうため、オリエンテーションや読書感想文の選書を国語の授業に入れてもらい、図書館へ足を運ぶきっかけ作りを行った。その際、初めて訪れた生徒の様子を観察し、関心を持った本を選書の対象にするなど、「読みたい本がそこにある図書館」を意識した取組を重ねてきた。 貸出10冊ごとにしおりを、50冊を達成した生徒には紙バッグを用いたブックカバーを作製・配布し、読書意欲の向上に努めた。 図書委員会による本紹介、テーマ展示、委員会だよりの発行を定期的に行い、生徒目線での情報発信に力を入れることで、図書館をより身近に感じられるよう工夫した。						
	取り組んだ感想	生徒のリクエストを取り入れた選書と「映像化作品」コーナーを常設したことで、これまで来館したことがなかった生徒の利用が見られるようになった。しかし来館した生徒がまた別の生徒を連れてくるなどの効果があった一方で、一部生徒が利用マナーの面で課題が見られたので、今後全校への周知とともに個別の声かけを行っていきたい。						
	今後の取組予定 （令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月）	昨年同時期16%であった不読率は、現時点で13%まで改善されており、年度末の1桁台を目指し取組を継続するほか、今年度一度も図書館を利用していない生徒に対し、積極的な声かけや情報提供を行い利用の促進につなげたい。						

*取組内容紹介（特に力を入れたもの）

① 読書環境整備

・**蔵書の充実**：予算を細かく分け新刊の購入回数を増やし、常に新しい本がある図書館を生徒に印象付けている。生徒の読書傾向に応じた選書の他、リクエストも積極的に受け付けている。新刊貸出の際は教室へ新刊案内を掲示するほか、昼の放送でも案内を行っている。

・**テーマ展示**：図書館入口の棚を活用し、季節や行事に合わせたテーマ展示と映像化作品の展示を行っている。映像化作品コーナーは生徒の関心が高く、展示した本は常に貸出中で予約も多い。

・**面出しリンク**：昨年度 5,000 冊の除籍と NDC に基づく配架の見直しを実施したことで書架に余裕が生まれ、面出し展示が可能となった。そこで、掃除担当の生徒が面出しを行い、本を借りた生徒が次の本を面出しする「面出しリンク」という取組を始めた。生徒の視点を活かした書架展示により、多くの生徒が幅広い本に触れるきっかけとなっている。また、担当する生徒にも図書館の本に興味を持つきっかけとなり、貸出へとつながった。

・**新聞活用**：本校は今年度 NIE 実践校に指定されており、玄関の新聞コーナーでは 6 社の新聞が閲覧できる。各社の特徴がわかるよう、歴史、発行部数などを紹介する掲示を作成し、合わせて展示している。

また、図書館内では「図書館教育ニュース」を掲示し、毎回のテーマに沿った本の紹介や間違い探しクイズもあわせて掲示している。

・**しおり・ブックカバー配布**：貸出 10 冊ごとに配布するしおりは、アンケートで寄せられたリクエストをもとに、2 カ月ごとにテーマを替え作製している。貸出目標の 50 冊を達成した生徒には、好きな紙バッグを選ばせ、ブックカバーにして渡している。使用する紙バッグについては、職員に協力を呼びかけ取組の周知を図った結果、生徒への声かけも増えた。



映像化作品コーナー



面出しを行う様子



NIEコーナー



ブックカバー

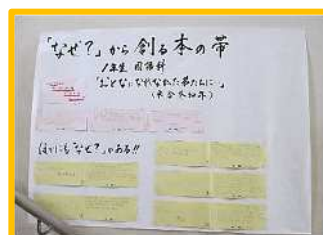
② 授業連携

・**オリエンテーション**：選んだ本を 3 分ずつ順番に試し読みする「味見読書」と、LibraryNAVI(ライブラリー・ナビ)を用いた図書館の利用案内を行った。味見読書の際に蔵書をじっくり見て回ったことで、蔵書の幅広さに気づき、図書館に足を運ぶきっかけとなった生徒が多く見られた。図書館について知ってもらうため、作成したものは職員にも配布を行った。



LibraryNAVI

・**本の帯づくり**：一年生の国語の授業『大人になれなかった弟たちに…』終了後に、「本の帯づくりをしたい」との相談を受け、ゲストティーチャーとして本の帯の説明を行い、担当の先生の相談しながら使用する帯の作成を行った。



作品展示

完成した帯は図書館入口に掲示し、参観日には保護者へも見てもらったほか、図書館内に日替わりで本に巻いて展示を行った。

③ 委員会による広報活動

・ **アンケート実施**：全校生徒を対象に図書館利用に関するアンケートを実施した。利用が少ない生徒からの「年間貸出目標を達成できなかった理由」、「図書館に置いてほしい本」に対する回答を図書館運営に反映させ、利用促進につなげることができた。

・ **おすすめの本紹介**：「夏」、「秋」をテーマに POP を作成、展示した。展示された本を読んだ生徒には感想カードを書いてもらい、紹介した委員へ渡した。

本を通じた交流を目的に、POP を市内の中学校でも活用していただいた。

「秋の読書推進月間」には、全校生徒一人一人におすすめの本をカードに書いてもらい、図書委員が学級ごとに模造紙にまとめ各教室に掲示した。

掲示の作成には、図書委員以外にも多くの生徒が協力し、各学級個性の光るものに仕上がった。



他校での活用の様子



・ **委員会だより発行**：図書館だより「となりの図書館」、委員会だより「つながる図書館」を両面で発行し、イベントや各クラスが多読者の「推し本」の紹介などを行った。

④ 図書館まつり

・ **先生当てクイズ**：先生方の幼い頃の写真とおすすめの本をヒントに、紹介している先生を当てるクイズで、毎年好評の企画である。正解者には後日行われる抽選会への参加券を配布しており、これを目的に普段利用しない生徒の来館も多数見られる。

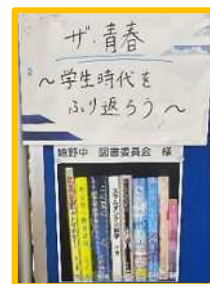


・ **広辞苑カルタ大会**：広辞苑に掲載されている言葉が書かれた取り札と、その意味が書かれた読み札を用いたカルタである。賞品を用意して参加者を募集したところ、応援者も含め、普段来館しない生徒が多数来館していた。先生の参加もあり、盛り上がりを見せた。



⑤ 地域との連携

・ **嬉野図書館の企画への参加**：「嬉野市読書活動推進月間」に図書館で行われた好きなテーマで特集コーナーを作るという企画に、嬉野中図書委員会として参加した。「ザ・青春」というテーマで、学生生活に関する本を10冊選書し、図書館に展示していただいた。



・ **地元書店のイベントの活用**：佐賀県書店商業組合が行っているクーポン券配布のイベントを図書館だよりで紹介したほか、生徒会予算を活用して本を購入し、クーポン券をいただいた。いただいた券は、図書館まつりで行った抽選会の景品として活用した。

ちょっとそこまで・・・
町内であてかけをして、「読書の秋」を感じませんか。

② 古賀書店

2,000円以上本を買うと、**500円クーポン**がもらえるそうです。これはかなりお得です☆ 本を買う予定がある人は、ぜひ古賀書店へ♪ 図書館まつりの景品にも1枚準備しています。お楽しみに(*^へ^*)

⑥ 多様な子どもたちへの対応

- ・学校生活支援員と連携した定期来館の働きかけ：校内適応教室を利用している不登校傾向のある生徒に対し、学校生活支援員と連携し、登校時にいつでも図書館を利用できる環境を整えている。

対象生徒からのリクエストも選書に反映するとともに、読書傾向に応じた本の紹介や読後の感想を共有するなど、次の登校時も来館しやすい働きかけを行っている。対象生徒が本来読書好きであることも幸いし、来館時の司書との対話を楽しみにしており、生徒の登校意欲にもつながっている。

また、その他の適応教室の生徒や特別支援学級の生徒に対しても、個別の声かけや本の紹介、読み聞かせなどの対応を行い、生徒の読書意欲の向上につなげている。